

FFG ビジネス
コンサルティングの

釣道

ちよっと
つりみち

「唐津の碧い追憶
鮎色のマハゼ編」

Vol.16



ちびフグ釣られて激オコ♡



2



4 3

1

①朝焼けに浮かび上がる唐津湾 ②海に浮かぶ鳥居は荘厳な光に映える ③クリクリした目が可愛いマハゼ ④波止で和む筆者

北部九州に生まれた私は、実は恵まれているのかもしれない。

子供の頃から親しんだ、耳なじみのある地名や日常的な景色。それが実は世界的にも有数の景勝地であったり歴史的にも重要な遺構であったりする。FFGの拠点がある福岡市の周辺は、大陸から近い位置にあり、遠い昔から大いなる歴史の流れの中に置かれてきた。元寇の舞台となった博多湾だけでなく、その西側、糸島を跨いだ先に間口の広い内湾がある。その海域は唐津湾と呼ばれ、糸島半島の対岸となる東松浦半島には太閤秀吉や諸大名が唐入りの戦準備で陣入り・常駐し、短い間だが政治経済の中心地となっていたこともあるのだ。実はこの静かな郊外の海は、世界的に著名な人物から生涯愛された景勝地でもあることや、その景観は歴史の中で人工的に築き上げられたものであることは案外知られていない。

幼少の頃、幼馴染の親友から虹ノ松原にあるホテルと海で、博多湾では見られない珍しい魚やクラゲを見た話しを聞いて、いってもたつてもいられなくなり、祖父母

にせがんでようやく連れて行ってもらい見ることができたネコザメの珍奇なカタチ。レアなおピクラゲこそ見れなかったが、西九州道が整備され行きやすくなった唐津に来ると、そんな追憶が甦る。

また若い頃、この虹ノ松原や、鏡山にドライブで行かれた方も多いと思う。近年では唐津くんちもメジャーになり、湾の真ん中に浮かぶ高島の宝当神社は、宝くじが当たるご利益ある神社としてバラエティ番組等で紹介され全国的にも有名である。

話を戻そう。映画「グラン・ブルー」でその名を世界に知られたフランスのフリーダイバー、故ジャック・マイヨール氏。上海で生まれた彼は、幼少のころ唐津を訪れておりその頃に見た七ツ釜の海中でイルカに出会い、その後の運命を決定づけられたという。そして世界的な名声を得てからもこの唐津にお忍びで来ては寿司をつまんでいたと聞く。そんな唐津はもともと佐賀県内第二の都市であったが、平成の大合併により6町2村が吸収され唐津藩城下の港湾都市だったイメージから、今や東松浦半島の大平や七山村を

含む広大な地域に跨るようになっていく。世界的なダイバーと自分を重ねるわけではないが、そんな唐津は私にとっても釣り好きになる原体験をくれた土地かも。

この素晴らしい海は白砂青松の虹ノ松原や、松浦川などのイメージもあるが、呼子や仮屋湾のリアス海岸の地形や、七つの離島などあらゆる釣りに適した環境がそこにある。それに幼い頃の原体験が重なり私は誘われるのだろう。

初冬なのにポカポカ陽気の週末、半島の付け根の小港にある河口の堤防で筆者はまどろむ。潮が満ち始めた河口は、さざ波が規則的に陽の光を反射し臉をくすぐる。同時に竿を握っていた右手に小気味よい生命反応が伝わってきた。リールを巻くと秋を越え冬支度をした鮎色の魚体が目に入る。天ぷらにすると美味なマハゼが釣れてくれた。思えば子供の頃、同級生と冒険がてら初めて海に行つて釣れた愛らしい懐かしい魚だ。季節外れな心地よい陽光に煌めく川面、鼻腔を擽る潮の香に、ベン・E・キングの「STAND BY ME」のイントロが聞こえた気がした。